

背景

- エゾシカの生息数は、全道で約64万頭と推定され、農林業被害や交通事故などが増加傾向。
- 森林においてシカ密度を把握して効率的捕獲を行い、生息密度の低下、被害や生態系への悪影響を軽減することが急務。

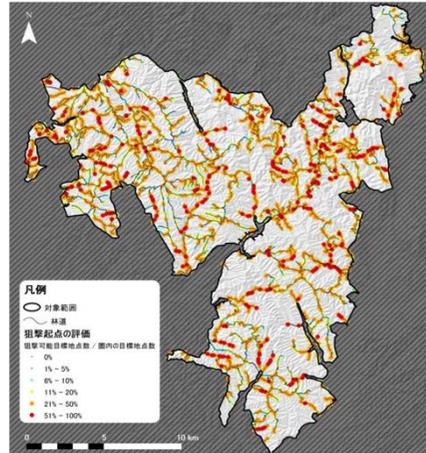
成果

1 シカ相対密度把握方法の検討

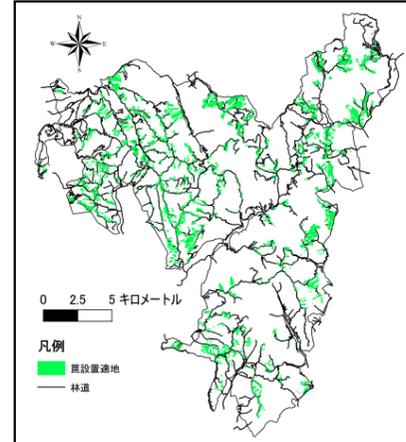


- 密度把握手法である目視(ライトランセクト)法は、経験を要する方法であり、普及させることが難しい
- より簡便な自動撮影カメラによる方法を検討し、目視法と同等の精度を確認

2 GISを用いた捕獲適地の抽出



狙撃に適した見通しの良い地点の地図



大型囲いワナの設置に適した地点の地図

- 標高や傾斜角などの地形データを用いて、狙撃に適した見通しの良い地点を抽出、地図を作成
- 地形・植生などのデータを用いて、大型囲いワナ設置に適した地点を選定する方法を検討、地図を作成

3 捕獲技術開発



開発中の簡易囲いワナ

- 移設が容易な簡易囲いワナの設計・試作及び試験捕獲を実施
- 特許出願中

期待される効果

- 自動撮影カメラによる簡便なシカの密度把握手法を確立、銃とワナ捕獲を組み合わせた効果的な捕獲手法を確立。
- マニュアル等を作成し森林所有者等に技術移転し、森林施業とシカ個体数管理の計画的な実施を推進。